

平成 1 8 年

高 松 市 教 育 委 員 会 1 1 月 定 例 会

会 議 録 (抄本)

1 1 月 3 0 日 (木) 開会

1 1 月 3 0 日 (木) 閉会

出席委員			
委員長	幡 慶 一		
委員	馬 場 和 子		
	辻 紘 一		
	岡 義 博		
教育長	横 田 淳 一		
欠席委員			
委員			
説明のため会議に出席した者等			
教育部長	林 昇		
文化部長	馬 場 朋 美		
教育部次長 総務課長事務取扱	松 木 健 吉		
文化部次長 文化振興課長事務取扱	川 崎 正 視		
学校教育課長	上 原 直 行		
社会教育課長	川 田 喜 義		
菊池寛記念館副館長	平 田 順 彦		
総務課長補佐	白 井 健 司		
総務課総務係長	佐々木啓明		
会議録署名委員	辻 紘 一		
事務局担当書記	谷 本 泰 洋		

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（１１月定例会）

日程第１ １０月定例会会議録承認について

日程第２ 議案第59号 高松市立学校の学校医に対する感謝状の贈呈について

日程第３ 議案第60号 屋嶋城跡調査検討委員会委員の委嘱について

日程第４ 報告事項

- １ 決算審査特別委員会の結果について
- ２ 構造改革特別区域計画認定申請について
- ３ 高松市立幼稚園のあり方に関する懇談会の開催結果について
- ４ 高松市社会教育委員の委嘱について
- ５ 新高松市文化芸術振興ビジョン（案）について
- ６ 菊池寛記念館第１６回文学展「与謝野寛・晶子」展および第１３回「与謝野晶子短歌文学賞」について

日程第５ 質疑事項

【平成18年11月30日（木） 議 事 内 容】

午後2時 開会

委員長が、会議録の署名委員に辻委員を指名。

日程第1 10月定例会会議録承認について

委員長が、10月定例会会議録承認について各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第2 議案第59号

議案第59号 「高松市立学校の学校医に対する感謝状の贈呈について」

学校教育課長から、平成18年11月11日に逝去した高松市立下笠居小学校校医 小松 勝彦 氏に感謝状等を贈呈することについて説明。

<質疑>

- 委 員 記念品を授与するということですが、どのようなものでしょうか。
- 学校教育課長 3千円程度のお盆などを考えています。
- 委 員 長い間お世話になりましたので、金額の問題ではなく、感謝の気持ちを表すことが大事であると思います。
- 委 員 小松先生は、高松市医師会の総務部長を務めており、将来的には会長に就任するだろうと目されていたほどの方でした。また、非常に野球が得意な方でもありました。
- 教 育 長 高松市役所と高松市医師会の親善野球大会などでは、いつもキャッチャーを守っており、大変なスポーツマンであるとともに、人間的にもおおらかな性格の方でいらっしゃいました。私も健康福祉部に在籍していたときから非常にお世話になっており、将来は、高松市医師会の会長と嘱望されていた方だったのですが、今回のことでは、たいへん惜しい方を亡くしてしまったと思っています。
- 委 員 下笠居小学校の学校医を務められていたようですが、後任も素晴らしい方が引き継いでくださることと思います。

委員長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第3 議案第60号

議案第60号 「屋嶋城跡調査検討委員会委員の委嘱について」

文化部次長から、屋嶋城跡調査検討委員会委員の任期が満了することに伴い、平成18年11月30日付けで委員の委嘱を行うことについて説明。

<質疑>

(発言する者なし。)

委員長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第4 報告事項

報告事項1 「決算審査特別委員会の結果について」

教育部長および文化部長から、決算審査特別委員会の結果について説明。

<質疑>

- 委員 先月落成した香南中学校の体育館を市民にも開放していくということですが、小学校で行われているような学校開放の形を採るのでしょうか。
- 教育部次長 小学校では地域に対して学校開放を行い、中学校では一般向けに学校開放を行っているのですが、香南中学校の体育館は、基本的に中学校方式で学校開放を行うことを考えています。
- 委員 小学校では地域、中学校では一般向けということですが、どのような違いがあるのでしょうか。小学校の学校開放については予算措置が行われていますが、中学校の学校開放でも予算措置が行われているのでしょうか。
- 教育部次長 小学校では、各学校に学校開放運営協議会を設置し補助金を支出しています。中学校でも予算措置を行っていますが、電気代等を負担していただくという

ことから有料で貸出しを行っています。その点が小学校の学校開放とは異なっている部分です。

報告事項2 「構造改革特別区域計画認定申請について」

学校教育課長から、内閣府構造改革特区担当室からの平成18年11月16日付け高松市小中一貫教育特区新規認定通知、および小中一貫教育特区に伴う教員免許弾力化構想等の特区提案に対する文部科学省の回答について説明。

<質疑>

- 委員 特区提案についてですが、先月の定例会でも学校教育課長が、ぜひ認めてほしいと言っていた「小学校教員の中学生への懲戒権の拡大」が認められ、良かったと思います。特区提案に関する五つの事項のうち、教員免許の弾力化構想に関する二つの事項が認められなかったということでしょうか。
- 学校教育課長 ほかの事項については、現行規定により対応可能ということでしたが、これら二つの事項は特区として対応不可ということになりました。今後、香川県教育委員会に対して、対応可能となった臨時免許状や特別免許状の授与について、検討するよう働きかけていきたいと考えています。
- 委員 伊吹文部科学大臣が、小学校での英語教育に対して懸念を示していたこともありましたので、小学校での英語教育を盛り込んだ高松市の小中一貫教育特区自体が認められるかどうかを心配をしていました。
- 委員 特区提案の一部が認められなかったので、中学校教諭免許だけを所有する教員は、小学校での学級担任になることができなくなりましたが、その教員も、当該教科については、小学校での指導を行うことができるということですから、大きな支障はないと思います。
- 学校教育課長 小学校5・6年生に教科担任制を採り入れていきたいという目的がありましたので、中学校の教員が、小学校でも専科として指導を行えるということでは良かったと思います。
- 委員 資料では、「小学校教員がこれまでの実績を評価された場合は、現在所有する中学校免許と異なる教科を中学校で指導できるようにする。」という高松市の特

区提案が、文部科学省には対応不可と措置されているにも関わらず、その事項に関する文部科学省の回答内容を見ると、「中学校教諭は、免許状を有していない教科を教授することは可能」という旨のことが書かれているのですが、中学校で教員をしていれば、免許と異なる教科でも指導できるということでしょうか。

- 学校教育課長 これは、免許外教科担任制度を活用するということが前提となっており、この制度が、先ほども述べた臨時免許状を授与することを指します。数学の免許だけを有する教員が臨時免許状の授与を受けることによって、理科の指導も行えるということを示しています。
- 委 員 資料中の他の新規認定された特区計画を見ると、二つの自治体で、小中高一貫教育というものがありますが、その内容は御存知でしょうか。
- 学校教育課長 これらは、島嶼部などの過疎対策という目的もあり、中学校から高等学校へ進学する際、都市部の学校へ進学するケースが多くあるということから、小中高一貫教育特区を申請したと聞いています。

報告事項3 「高松市立幼稚園のあり方に関する懇談会の開催結果について」

学校教育課長から、平成18年11月15日に開催された第1回高松市立幼稚園のあり方に関する懇談会の開催結果について説明。

<質疑>

- 委 員 現場の声を聞いてほしいという意見が上がっていたようですが、具体的にどのような方のことを言っていたのでしょうか。
- 学校教育課長 発言をされた委員の方は、具体的な方までは言われませんでしたが、幼稚園現場に勤務している職員や、子どもを通園させている保護者であると思います。
- 教 育 長 現在、高松市では保育所の民営化が進められていますが、今回の検討事項には、幼稚園の民営化や統合という文言が入っており、幼稚園も民営化の方向へ進んでしまうのではないかという懸念を持たれた委員の方もいらっしゃいました。そのようなことから、保育所民営化の経緯について、この懇談会でも説明をしてほしいという要望がありましたので、次回の懇談会には保育所担当の保育課長に出席し

てもらい、その経緯や目的等について説明してもらおうと考えています。

- 委 員 配布資料中の各幼稚園の入園率を見てみると、９９パーセントと非常に高い幼稚園もあるのですが、これは、ほかに通園できるような所がないためでしょうか。
- 学校教育課長 そのように入園率が高い幼稚園は、ほかに通園可能な幼稚園がなかったり、対象年齢となる子どもの人口密度が高いということも影響していると思われます。その逆の場合は、３０パーセント台という低い入園率の幼稚園もあります。
- 委 員 保育所の入所率の方が高いのでしょうか。
- 学校教育課長 全体的には、保育所の方が高くなっています。
- 委 員 私が以前に勤務した市立幼稚園は、園児の数が少なかったため、説明会に出向いて行って、その幼稚園の良さを話したこともありましたが。資料では、その幼稚園も８０パーセント台という入園率になっており、公立幼稚園に対する評価は高いのではないかと思います。
- 学校教育課長 公立幼稚園の評価が高いということもあると思いますが、地域の人口分布状況が以前と変わってきていますので、その影響もあると考えています。
- 委 員 子どもを長い時間みてほしいという考えから、保育所に預けたいのだという保護者の意見を耳にしたこともありましたが、そのようなことは影響しているのでしょうか。
- 学校教育課長 保育所の場合、「保育に欠ける」という一つの条件があり、保護者が仕事を持っていないと入所できないという制限がありますので、そのことについては、仕事が一因となっているのではないのでしょうか。
- 教 育 長 以前から公立幼稚園にも預かり保育を実施してほしいという要望があり、高松市でも政策会議などに諮り、実施する方向で方針を作成していました。しかし、預かり保育は、合併前の旧高松市内において、定員を大きく割り込んでいる私立幼稚園で実施されていたのですが、公立幼稚園でも預かり保育を実施することになれば、民業圧迫になるという非常に強い反対があり、実施を見送った経緯があります。本日、市議会の所管事務調査が実施されたのですが、現在開会されている香川県議会において、条例案が可決された場合に新設される「認定子ども園制度」が議題に上りました。その場では、積極的に導入してはどうかという意見もあったのですが、入園率が低いことは私立幼稚園も同様であり、そちらの方が非常に強い危機感を抱

いています。私立幼稚園も認定子ども園制度を取り入れていこうという考えがあり、高松市としても、公立幼稚園のことだけを考えていれば良いというわけにはいきませんので、公立幼稚園が認定子ども園制度を導入するには、解決しなければならない多くの課題があります。配布資料には、高松市内の公立と私立を合わせた幼稚園の入園率が71.1パーセント、それに比べて、高松市内の公立と私立（認可）を合わせた保育所の入所率は100.6パーセントという数字が記載されています。保育所は非常に高い数字であり、私立保育所では、定員を超えているところもあります。平成18年度までは、全員が保育所に入所できないことから、待機児童として子どもが家庭で待機している状態でしたが、保育課の話によれば、平成19年度から待機児童が解消されるということです。幼稚園の方は入園率が低下しており、鬼無幼稚園や下笠居幼稚園などでは30パーセント台という数字です。これらの幼稚園は、それぞれ鬼無保育所や下笠居中央保育所が近隣にあるのですが、そのような状況下で低い入園率であるのなら、将来的に幼保一体化することも検討していかなければならない段階に来ているのではないかと思います。

報告事項4 「高松市社会教育委員の委嘱について」

社会教育課長から、高松市社会教育委員の任期が満了することに伴い、平成18年11月27日に付けで委員の委嘱を行ったことについて説明。

<質疑>

- 委 員 退任する大捕さんは、現在も高松市子ども会育成連絡協議会の会長を務めていらっしゃるのでしょうか。
 - 社会教育課長 現在も会長でいらっしゃいます。
 - 委 員 会長の大捕さんが再任されず、副会長の関本さんに新しく委嘱するのは、どのような理由によるのでしょうか。
 - 社会教育課長 高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱に、「在任期間が引き続き10年を超えない」とありますので、今回はその要綱に準じ、会から推薦された副会長の関本さんをお願いすることになりました。
-

報告事項5 「新高松市文化芸術振興ビジョン（案）について」

文化部次長から、高松市文化芸術振興ビジョン策定懇談会において策定された新高松市文化芸術振興ビジョン（案）について説明。

<質疑>

- 委 員 配布資料の新高松市文化芸術振興ビジョン（案）の概要を見てみると、文化芸術振興の方策には「文化芸術で地域と世界を結ぶ」とありますが、文化芸術振興の基本的スタンスに、その旨の記載がされていないことは構わないのでしょうか。
- 文化部次長 これは概要版でありますので、本文中には記載があります。本文では、「世界には、宗教や民族、経済環境の異なる様々な国がある中で、文化芸術は国を越えた相互理解と人的交流の架け橋として、その役割は極めて大きい。」という書出しで始まり、「国際的な交流へと、発展させる必要がある。」等のことが書かれています。しかし、具体的な施策ということになれば、予算的な制約もあり、新しいものを次々と実施していくことは難しい面もあると思いますが、取り組んでいかなければならないことであると考えています。資料中でも、「文化芸術で地域と世界を結ぶ」という区分の中の「実施継続している施策」として、「高松国際ピアノコンクール」と「財団法人高松市国際交流協会への活動支援」が上がっており、「これから考えられる施策」では、「海外留学生、在住外国人との交流事業」が上げられています。民間レベルでも文化芸術の国際交流が行われており、それらについては、単純に金銭的な支援をするだけでなく、ソフト面などでの援助も行っていきたいと思います。
- 委 員 アーツクリニック、アーツコーディネーター、アーツボードなどとカタカナによって表記され、用語解説が付けられていますが、これらのものは、日本語表現でもいいのではないかと思います。
- 教 育 長 今後についてですが、予定どおり12月中に印刷・発行するのでしょうか。
- 文化部次長 極力、そのような方向で考えています。元々、このビジョン作成は、昨年度の事業として予算措置されたものでしたが、市町合併が行われることで状況が変わってきたこともあり、作成が延期されました。委員の委嘱は昨年度中に行って

おり、昨年度は一度だけ会議を開催しましたが、ある程度状況が分かってきてから検討を行うということで、合併後に5回の会議を開催しました。一年遅れで、この新高松市文化芸術振興ビジョンが作成されることになります。

- 委 員 教育委員会8月定例会で報告されたものは、その時点での案として作成されたものだったのでしょうか。
- 文化部次長 前は、素案として報告しました。第1回から第3回までの会議で自由に討論していただき、それを文章化したものが前回のものです。それを基に、パブリックコメントを実施したり、市議会の意見を聞いた後、2回の会議を実施しました。合計5回の会議を開催し、その結果まとめられたものが、本日、案として報告しているものです。
- 教 育 長 今後「案」として、市議会の意見も伺うので、修正も見込んで印刷・発行の日程を組んでください。

報告事項6 「菊池寛記念館第16回文学展「与謝野寛・晶子」展および第13回「与謝野晶子短歌文学賞」について」

菊池寛記念館副館長から、菊池寛記念館第16回文学展「与謝野寛・晶子」展および第13回「与謝野晶子短歌文学賞」の開催について説明。

<質疑>

- 委 員 「与謝野寛・晶子」展についてですが、寛よりも鉄寛の呼び名の方が有名だと思うのですが、あえて寛としている理由はあるのでしょうか。
- 菊池寛記念館副館長 寛は本名で、鉄寛は雅号ですが、明治38年くらいまでは、本人も雅号である鉄寛の方を使用していましたが、それ以降、本名である寛を使うようになっていきます。実際には、言われるように鉄寛の方が有名ですが、他市で開催されたときも「与謝野寛・晶子」展と本名である寛の方が使われておりますので、高松市でも寛の方を使用することとしました。

日程第5 質疑事項

学校教育課長から、いじめ問題に関して、平成18年11月17日付け「文部科学大臣

からのお願い」および平成18年11月29日付け教育再生会議有識者委員一同による「いじめ問題への緊急提言」を踏まえ、高松市教育委員会の取組みと対応等について報告。

学校教育課長から、高松市立中学校教諭による無免許運転に関し、所属校長に対し文書訓告を行ったこと、および運転免許に関する高松市立学校の事後の対応について報告。

————— 午後4時 閉会 —————

議決事項

「高松市立学校の学校医に対する感謝状の贈呈について」

「屋嶋城跡調査検討委員会委員の委嘱について」